

平成27年度病虫害発生予察予報第5号（8月）

平成27年8月4日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
普通期稲	いもち病 ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ	平年並(県下全域) <u>多(中央)</u> 、やや少(東、中西、西) <u>多(東、中央)</u> 、 <u>やや多(西)</u> 、少(中西) <u>多(東、西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(中西)
かんきつ類(温州みかん)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	やや少(中央) <u>多(中央)</u> 少(中央) 少(中央) <u>多(中央)</u>
かんきつ類(中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	<u>多(中西、西)</u> 、やや少(東)、少(中央) 平年並(県下全域) <u>多(東、中央)</u> 、 <u>やや多(西)</u> 、少(中西) <u>やや多(中西)</u> 、平年並(東、西)、少(中) <u>多(県下全域)</u>

※ () 内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 7 月 30 日発表）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞ 8 月 1 日から 8 月 31 日

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう 1 ヶ月の平均気温は平年並または高い確率ともに 40％です。降水量は、平年並または少ない確率ともに 40％です。日照時間は多い確率 50％です。

週別の気温は 1 週目は平年並または高い確率ともに 40％です。2 週目は平年並または高い確率ともに 40％です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	20	40		40
		降水量	40		40	20
		日照時間	20	30	50	

＜気温経過の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1 週目	四国地方	20	40		40
2 週目		20	40		40
3～4 週目		30	30	40	

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：8 月 1 日（土）～ 8 月 31 日（月）

1 週目：8 月 1 日（土）～ 8 月 7 日（金）

2 週目：8 月 8 日（土）～ 8 月 14 日（金）

3～4 週目：8 月 15 日（土）～ 8 月 28 日（金）

II 病虫害発生予想

1 普通稲の病虫害

1) いもち病

予 想 発生量：平年並（県下全域）

根 拠

(1) 7 月の調査では県西部では平年並、東部、中央部、中西部では多発生であった。

発生ほ場では進行型病斑が多く、ずりこみ症状が見られたほ場もあったが、7 月 24 日の梅雨明け以降、高温多照条件が続いているため、いもち病の進展は停止していると考えられる。

(2) 8 月の気温は平年並～高めと予想されているため、感染力は衰えると考えられる。

対 策

(1) 本県での発生は確認されていないが、他県では QoI 剤の耐性菌が確認されている。

QoI 剤耐性菌発生を防止するため、これらの剤の使用回数は作期を通じて 1 回以内とする。

(2) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

2) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量：多（中央部）、やや少（東部、中西部、西部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県中央部で発生面積がやや多く、密度も高めであったが、他の地域では目立った発生は見られなかった。
- (2) 8月の気温は平年並～高めと予想されているため、既発ほ場では密度が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 萎縮病の発生は確認されていないため低密度時の防除は必要ないが、出穂期に高密度になると稔実不良となるおそれがあるので注意する。

3) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：多（東部、中央部）やや多（西部）少（中西部）

根 拠

- (1) 7月の調査では県東部、中央部で多めの発生であったが、西部では平年並、中西部では少発生であった。
- (2) 8月の気温は平年並～高めと予想されているため、既発ほ場では密度が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫による直接被害は少ないと思われるが、縞葉枯病を媒介するので発生に注意する。

4) セジロウンカ

予 想 発生量：多（東部、西部）、やや多（中央部）、やや少：（中西部）

根 拠

- (1) 7月の調査では、県東部、西部で多め、中央部で平年並、中西部では少発生であった。
- (2) 8月の気温は平年並～高めと予想されているため、既発ほ場では密度が増加すると考えられる。

対 策

- (1) セジロウンカはトビイロウンカ、コブノメイガ同様、中国大陸等から飛来する害虫であるため、ほ場内での発生に注意し、多飛来があった場合には、産卵痕や吸汁により生育被害が出るので防除を行う。

5) その他の病虫害

7月の巡回調査では確認されていないが、九州地方ではトビイロウンカの飛来が確認されているので注意する。

2 カンキツ（温州みかん）の病虫害

1) そうか病

予 想 発生量：やや少（中央部）

根 拠

- (1) 7月の調査ではやや少なめの発生であった。

(2) 8月の降水量は少なめ～平年並と予想されているため病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

(1) 幼木や発生の多い園地では黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により、春葉への感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

(1) 7月の調査では多発生であった。

(2) 8月の降水量は少なめ～平年並と予想されているため病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

(1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

(1) 7月の調査では少発生であった。

(2) 8月の降水量は少なめ～平年並と予想されているため病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

(1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢は剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

(1) 7月の発生はやや少なめであった。

(2) 高温期には密度低下が見られるため、少発生になると考えられる。

対 策

(1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) カメムシ類

予 想 発生量：多(中央部) (トラップ調査データ)

根 拠

(1) 7月の調査では、ほ場での発生は殆ど見られないが、フェロモントラップにおける7月の誘殺数(7月1～4半旬)は、県東部で平年の4.4倍、中央部で2.9倍、中西部で5.9倍、西部で13.9倍となっている。

対 策

(1) 果樹カメムシ類はスギ、ヒノキ等の実を餌としているので、密度が高くても山林

に餌が十分にあれば果樹園での被害はほとんど無いと考えられるが、山林で餌不足になると樹園地に飛来し、加害する可能性が高い。また、台風後には樹園地に飛来することもあるので注意する。

3 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多（中西部、西部）、やや少（東部）少（中央部）

根 拠

(1) 7月の調査では県中西部、西部で発生が目立ったが、発病程度の高いほ場は見られなかった。また、県東部、中央部では問題となる発生ではなかった。

(2) 8月の降水量は少なめ～平年並と予想されているため病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

(1) 幼木や発生の多い園地では黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により、春葉への感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：平年並（県下全域）

根 拠

(1) 7月の調査では県下全域で平年並の発生であり、発病程度の高いほ場も見られなかった。

(2) 8月の降水量は少なめ～平年並と予想されているため病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

(1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：多（東部、中央部）、やや多（西部）、少（中西部）

根 拠

(1) 7月の調査では県東部、中央部、西部で多めの発生であり、県東部では発病程度の高いほ場も見られた。また、県中西部では少発生であった。

(2) 8月の降水量は少なめ～平年並と予想されているため病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

(1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢は剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：やや多（中西部）、平年並（東部、西部）、少（中央部）

根 拠

(1) 7月の調査では発生面積は県東部、中西部、西部多めの発生であり、中西部では

密度の高いほ場も見られた。また、中央部では少発生であった。

(2) 高温期には密度低下が見られるため、発生は減少すると考えられる。

対 策

(1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) カメムシ類

予 想 発生量：多（県下全域）（トラップ調査データ）

根 拠

(1) 7月の調査では、ほ場での発生は殆ど見られていないが、フェロモントラップにおける7月の誘殺数（7月1～4半旬）は、県東部で平年の4.4倍、中央部で2.9倍、中西部で5.9倍、西部で13.9倍となっている。

対 策

(1) 果樹カメムシ類はスギ、ヒノキ等の実を餌としているので、密度が高くても山林に餌が十分にあれば果樹園での被害はほとんど無いと考えられるが、山林で餌不足になると樹園地に飛来し、加害する可能性が高い。また、台風後には樹園地に飛来することもあるので注意する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ（こうち農業ネット）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ① 病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ② 病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③ 病虫害発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病虫害 etc.

こうち農業ネットサービス※

- ・ 携帯電話を使った病虫害関連情報（どなたでも利用可能です）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info>（Iモード）

トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報（ezweb）

四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：（ヤフー）

- ① 病虫害発生予察情報（概要）

※ 閲覧は無料ですが通信料は別途必要となります